

キーワード

6次産業とは？

農林漁業者が主体となり、自ら生産した農林水産物(1次産業)を使って加工(2次産業)や販売(3次産業)をすることによって付加価値を高める取組みのことです。

生産者の所得向上・雇用の促進・地域の活性化を目的として、全国各地で取組みが広がっています。

6次産業化を支援しています！

無料

大分県 6次産業化 サポートセンター

(☎ 097-537-2424)
(FAX 097-534-4320)

- 商品企画案作りのお手伝い
- 事業計画の作成・申請を支援
- 加工技術に関する情報の提供、コーディネート
- 販路開拓、本格的事業化までのフォロー
- その他 経営相談

市では集落営農組織の設立や法人化、6次産業化のサポートを行っています。

取組みを始めたい方・関心のある方は農林課 農政係(☎0978-62-3131)までご連絡ください。担当が相談に応じます。

集落営農をやる理由はどこも一緒です。5年・10年先の自分たちの農地のことを考えたとき、地域で力を合わせて守っていくしかない。でも、集落営農組織を作ったらそれで安泰というわけではありません。組織のみんなにやる気がなければうまく機能しませんし、当たり前ですが生活ができないとみんな農業を辞めていきます。やる気はもちろ

ん、所得を向上させていかなければなりません。そのためには、生産コストを下げながら収穫量を増やす工夫が必要です。付加価値をつけて農産物の価格低下を防ぐ取組みとして、6次産業化も全国的に注目されていますね。しかしそうやって農作物を売るにしても、組織単独ではやはり一般企業にはかきません。これからの時代は農業も企業として経営しないと生き残るのが難しくなるのではないかと思います。もしくは、**市全体の集落営農組織で協力しあう**体制が必要です。組織がいくつも集まって大きい加工所・販売所を作るんです。そうすれば加工するコストが下がりますし、

もっと大きい市場を視野に入れられるでしょう。より大きなスケールメリットを考えていかなければなりませんし、その体制づくりが大切です。それから、これからの農業には**「学」が必要**です。大学や研究機関のことですね。何を売り出すにも学術的な裏付けがないと、対外的にアピールするときに弱い。「産(生産者)」「学」「官(行政)」の連携が、ますます大事になってくると思います。

「広瀬台営農組合は優良経営体として表彰されたこともある、県内でも有数の集落営農組織です。15年間にわたりその組合長を務めた阿部銀蔵さんに、集落営農のこれからについてうかがいました。」

「花屋さんで「いい菊だなあ」と思って産地を聞いたら、うちの会社のだつた」と笑いながら話してくれたのは、昨年社長に就任した山下巖さん。マムズガーデン年田は、杵築市南東部に位置する年田地区で菊を専門に栽培する企業です。合計82アールのハウスで、年間を通しておよそ85万本の菊を出荷しています。平成22年に設立されたこの企業も、足掛かりは集落営農にありました。

農業に何か付加価値をつけられないか



▲夏季は優花、冬季は富士という菊を栽培し、年間通して出荷しています。写真は富士。



File.3 株式会社 マムズガーデン年田

「私は年田集落営農生産組合の理事もしているんです。でも集落営農だけではやはり見通しが厳しい。もつと年田区を活気づけるために農業に何か付加価値をつけられないかと考えていたところに、菊の栽培を勧められました。」

企業として独立した方が経営しやすかったことから、年田集落営農生産組合とは別の組織としてマムズガーデン年田が誕生しました。今では8人の社員が働いています。そのほとんどが農業は初めてだといえます。「今までいろんな仕事をしてきましたが、自分は農業以外向いていないと

感じました。」こう話してくれた加藤孝実さん(24)は、平成25年2月に入社しました。前職が肌に合わず、次の就職先を探していたところに声をかけられたそうです。「農業はしたことがありませんでした。きついで面白いです。一日の仕事が終わったときに達成感があった。将来は会社を背負えるような人材になりたいです。」と加藤さん。順風満帆に見える菊栽培も、1年目はハウス1つ分の菊が病気で全滅する被害が出ました。その教訓を生かし、初心を忘れずに丁寧な管理を心がけているそうです。



▲加藤さん(左)と山下さん(右)

File.4 あべ ぎんぞう 阿部 銀蔵 さん

大分県酪農組合 理事などを務めたのち、平成10年に広瀬台営農組合を設立し組合長に。現在は同組合の理事を務めています。

